

これは、遺された「一軒の家」をめぐる、ある家族の“命”の物語。

ドキュメンタリー映画

ただ会いたくて  
風吹く浜で、きょうも —

## 第16回青山ソーシャル映画祭


東日本大震災後の福島で生きる人達と“津波の記憶”を通じて、  
「いのち」と「あたりまえにあることの大切さ」を伝える  
ドキュメンタリー映画「Life」を上映します。

会費  
1人1,500円  
(ドリンク付)

# 福島の想いを伝える映画「Life」上映会

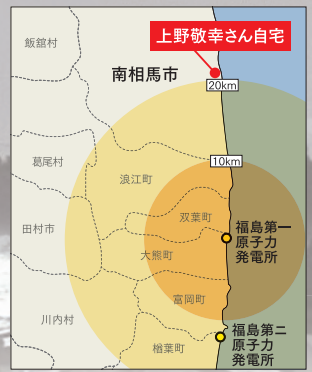
2017年3月29日(水) ■時間: 18時開場、18時30分～21時 / 上映 & 監督によるトーク  
■場所: 薬樹株式会社(港区赤坂8-5-26 住友不動産青山ビル西館4F)

■主催者: NPO法人Liko-net ■協力: 薬樹株式会社 問い合わせ先 **Eメール** info@liko-net.or.jp

監督・撮影・編集 / 笠井千晶(Rain field Production) 音楽 / Steve Pottinger(KPB Studio) タイトル題字 / 優和恵 イメージ画 / 小原風子 企画・製作 / 「想い願うプロジェクト」  
ドキュメンタリー映画「Life」公式Facebookページ <https://www.facebook.com/life.fukushima.tsunami/> [2017年] [115分] [16:9] [カラー] [日本] ©2017 Rain field Production 

2011年3月11日午後3時40分

# 福島県沿岸に津波襲来。 さらに、福島第一原発事故により すべてが一変する。 見捨てられた命が、そこにはあった。



「本当に助けて欲しいって思った時には、  
来なかったねえ、誰も—。」

舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた南相馬市萱浜(かいはま)地区。消防団員の上野敬幸さんは、自宅にいた両親と子ども2人を津波で流され、必死に家族を捜していた。その最中、福島第一原発が爆発。街から人の姿は消え、警察も自衛隊も来ない。捜索のため避難を拒んだ上野さんの目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された萱浜地区に、たった一軒遺った我が家だった。



かつて家族6人が暮らした我が家には、幸せだった過去と受け入れ難い現実が交錯する。やがて、失われた命の“記憶”と、新しく産まれた命が出会い、共に歩む日々が始まった。上野さんの3歳の長男は、行方不明者のまま。仲間と捜索を続けるうち、放射能汚染で“帰還困難区域”となった大熊町へと向かう—。そこには、原発事故のせいで捜索の機会すら奪われた家族がいた。



「福島の津波は、決して過去のものではない—。」

津波で家族を亡くした人たちの、震災後の5年を追ったこのドキュメンタリーは、いまでも続く、福島第一原発事故による被災の“知られざる一面”を描くものである。そして、“復興”の大きな波に抗い続けた主人公の上野さんが最後に下した、苦渋の決断とは—。



## ドキュメンタリー映画「Life」制作によせて

津波で家族を亡くした福島の遺族達との出会いは、私にとって衝撃的なものでした。これほどまでに、命が置き去りにされた出来事を、世間はまだ知らない。福島の被災といえば、誰もが「放射能」を思い浮かべます。そんな福島でも、1,800人余りが津波の犠牲になりました。なのに、あの震災が地震・津波・原発事故の「複合災害」だったという視点が、欠落しているように思えてならないのです。この映画を見て感じて欲しいのは、みなさん一人一人の命のこと、家族のこと。それは、撮影に協力して下さった津波被災当事者の皆さんが心から願っていることなのです。



監督プロフィール  
かさいちあき  
**笠井千晶**  
映像ディレクター  
フリージャーナリスト



放送局報道記者など15年の経験を経てフリーに。2010年に、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞奨励賞などを受賞。震災後、被災した東北での撮影と映像制作、個人上映会の開催を続ける。東日本大震災を映像で伝える「想い願うプロジェクト」主催。

想い願うプロジェクトFacebookページ  
<https://www.facebook.com/omoi.negau.prj/>